

「不正な管理人」

ルカの福音書 16:1~8

はじめに

今日もまた世の終わりの日について、イスラエルの残りの者を中心とした神のご計画を指し示す、イエシュアのたとえの解き明かしとなります。聖書を神のご計画を記した預言書として捉えた場合、その計画の成就、完成は「神の国、御国」となります。そしてそれは私たちの心や思いの中、または霊とか魂とか呼ばれるような目に見えない、あるいは抽象的な領域の中で実現するものではなく、イエシュアがかつて人の形をとってこの地に来られたように、「神の国、御国」もまたこの地に形となって現れるものです。その形となって現れるために、同じく目に見えるいくつかの存在が起こり、神のご計画の成就のために用いられていきます。私たち教会もそのような存在の一つなのですが、このイスラエルの残りの者こそが御国の福音を全世界に宣べ伝え、そうして今のこの時代は終わりを迎える、という存在なのです。彼らの存在はおそらく今の私たちの生活、人生とはほとんど無関係のように感じるでしょう。しかし私たちの主が、私たちの花婿イエシュアがこれを見つめ、思っておられるとしたら、私たちは決して無関心であってはならないのです。今日もイエシュアが見つめておられるその先を、ともに見るようにと祈り求めます。聖霊の助けが一人ひとりのうちにありますように。

1. 無駄遣い

ルカの福音書【新改訳 2017】

16:1 イエスは弟子たちに対しても、次のように語られた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この管理人が主人の財産を無駄遣いしている、という訴えが主人にあった。

「財産を無駄遣いしている」というこのたとえをヘブル語の最初の言及で考えてみましょう。まず「無駄遣いしている」と訳されているのはパーザル(פזר)といい、本来は「散らす」という意味の言葉です。

エステル記【新改訳 2017】

3:8 ハマンはクセルクセス王に言った。「王国のすべての州にいる諸民族の間に、散らされて離れ離れになっている一つの民族があります。彼らの法令はどの民族のものとも違って、王の法令を守っていません。彼らをそのままにさせておくことは、王のためになりません。

これはメディア・ペルシャの時代のイスラエルの民、ユダヤ人について説明しているものです。彼らには預言者モーセを通して主から与えられた律法があり、それはまさにどの民族のものとも違って、そんな彼らが自分たちの国ではない所にパーザル、散らされているのはなぜか、それはその律法を正しく理解しない、行わないどころか彼らの神、主をに逆らって偶像礼拝を行ったためでした。そのような不信、不正がまさにこの訴えられている「一人の管理人」の姿には表されているのです。

2. 会計報告

ルカの福音書【新改訳 2017】

16:2 主人は彼を呼んで言った。『おまえについて聞いたこの話は何なのか。会計の報告を出しなさい。もうおまえに、管理を任せておくわけにはいかない。』

そんな管理人に対し主人は「会計の報告を出しなさい」と要求しています。ここには「計算する、計画する、課する、見なす」という意味のハーシャヴ(חֶשֶׁב)が名詞形で、また「与える、渡す、置く」という意味のナータン(נָתַן)が使われています。これらの最初の言及を見てください。

創世記【新改訳 2017】

15:5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」

15:6 アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

創世記【新改訳 2017】

1:17 神はそれらを天の大空に置き、地の上を照らさせ、

1:18 また昼と夜を治めさせ、光と闇を分けるようにされた。神はそれを良しと見られた。

このように、ハーシャヴもナータンもともに「天」を指し示し、これら二つの本来の意味を統合するとそれは「アブラハムの子孫が星のように増え、天に置かれる」ということになります。これはすなわち終わりの日、大きな患難の中で起こされるイスラエルの残りの者が神の印を受け、その働きによってまさに星のような、だれも数えきれないほどの大勢の諸国の民が主イエシュアを、御国の福音を信じそして天へと上げられ、子羊の御座の前に置かれることが指し示されているのです。まさにこう預言されているとおりです。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

7:4 私は、印を押された者たちの数を耳にした。それは十四万四千人で、イスラエルの子らのあらゆる部族の者が印を押されていた。

7:9 その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。

このように、神がイスラエルの父祖アブラハムに約束された子孫繁栄の御言葉は、単にイスラエル民族という一つの民が増えることだけではなく、そのイスラエルによって、大勢の諸国の民が神の子、神の民とされることをも指し示しているのです。まさに「地のすべての部族はあなたによって祝福される（創 12:3）」とあるとおりです。このように、この主人に会計報告を出すように命じられた不正な管理人とは偶像礼拝を行い、御子イエシュアを否定し十字架にかけたイスラエルを表すと同時に、やがてその中から起こされるイスラエルの残りの者をも表しているのです。

3. 人々の家

ルカの福音書【新改訳 2017】

16:3 管理人は心の中で考えた。『どうしよう。主人は私から管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力はないし、物乞いをするのは恥ずかしい。

16:4 分かった、こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、人々が私を家に迎えてくれるようにすればよいのだ。』

管理人は失業という危機に直面しますが「人々が私を家に迎えてくれるようにすればよいのだ」と語っています。これは大患難という危機の中で生き延びるイスラエルの残りの者がどのようにして生き残るのかということが表されており、以下の預言を指し示しています。

ヨハネの黙示録【新改訳 2017】

12:1 また、大きなしるしが天に現れた。一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。

12:2 女は身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

この預言ではイスラエルの残りの者が「頭に十二の星の冠をかぶっていた」「身ごもっていて、子を産む」女にたとえられています。ここで「人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった」という預言がこの「人々が私を家に迎えてくれるようにすればよいのだ」というたとえと結びついているのです。144,000 人のイスラエルの残りの者は「千二百六十日の間」すなわち世の終わりの三年半の間、反キリストの大迫害の中を「神によって備えられた場所」「荒野」に逃れることで守られるのです。

4. 五十と八十

ルカの福音書【新改訳 2017】

16:5 そこで彼は、主人の債務者たちを一人ひとり呼んで、最初の人に、『私の主人に、いくら借りがありますか』と言った。

16:6 その人は『油百バテ』と答えた。すると彼は、『あなたの証文を受け取り、座ってすぐに五十と書きなさい』と言った。

16:7 それから別のの人に、『あなたは、いくら借りがありますか』と言うと、その人は『小麦百コル』と答えた。彼は、『あなたの証文を受け取り、八十と書きなさい』と言った。

次に管理人は二人の債務者を呼んで「油百バテ」の証文を「五十」に、「小麦百コル」を「八十」にそれぞれ書き換えさせました。このたとえの数に注目するならば、合わせて二百の負債が五十と八十、合わせ

て「百三十」に書き換えられたということになります。この「百三十」という数が聖書で最初に使われた箇所を見てください。

創世記【新改訳 2017】

5:3 アダムは**百三十年**生きて、彼の似姿として、彼のかたちに**男の子を生んだ**。彼はその子をセツと名づけた。

アダムの「彼の似姿として、彼のかたちに**男の子を生んだ**」ことを指し示す数、それがこの「**百三十**」です。二百の負債が残り百三十となった、つまり百三十が残った、という事実から見てもこの数がイスラエルの残りの者を指していると言えます。そしてそれが「**男の子を生んだ**」「**頭に十二の星の冠をかぶっていた**」女にたとえられた先ほどの黙示録の預言とも結びつきます。

そして二百の負債が百三十になったということは $200 - 130 = 70$ ということで「七十」が免除されたということになります。つまり七十という負債が赦され、突然この世から消え去ったのです。ではこの「七十」という数の初出箇所も見てみましょう。

創世記【新改訳 2017】

5:12 ケナンは**七十年**生きて、マハラルエルを生んだ。

このケナンは「巣、部屋」を意味するケーン(קֵן)から派生した名で、それは本来ノアの箱舟の中に設けられた「部屋(創6:14)」を意味する言葉です。またマハラルエルには「賞賛される」という意味のハール(הָלַל)があり、エール(אֵל)すなわち神の「花嫁としてハール**推薦**され、召し入れられる(創12:15)」という意味の名です。つまり「ノアの箱舟に入った者たちのように、滅びを免れ、神の花嫁として迎えられる」という神のご計画を表した数がこの「七十」であり、それは携拳によって救われる私たち教会を指していると言えます。つまりこの油五十バテと小麦八十コルのたとえには、男の子を産む女にたとえられたイスラエルの残りの者と、やがてイエシュアの空中再臨によって突如として空へ、天へと上げられ、地上から見え失せる、携拳される教会が表されて、いや秘められているのです。ちなみにこのたとえにも債務者の「**最初(שְׂרָאָה)の人**」と「**別の(אֲחֵרָה)人**」という形で、前に記されていた「先の者と後の者」についてのたとえを再び思い起こさせるような仕掛けが施されているのです。

5. 賢い

ルカの福音書【新改訳 2017】

16:8 主人は、不正な管理人が賢く行動したのをほめた。この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢いのである。

主人はこの不正な管理人が「**賢く行動した**」ことをほめ、イエシュアはこれを「**この世の子らは…光の子らよりも賢い**」と同じ意味として重ねてたとえておられます。つまりこの「**不正な管理人**」と「**この世**

の子ら」とは同じ存在を指し、それはもちろん男の子を産む女、イスラエルの残りの者 144,000 人を指しています。これを指してイエシュアは「賢い」と言われましたが、その本来の意味は一般のものとはまったく異なっています。ここに使われているアーラム(אֱרָם)の初出箇所を見てください。

出エジプト記【新改訳 2017】

15:6 主よ、あなたの右の手は力に輝き、主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

15:7 あなたは大いなるご威光によって、向かい立つ者たちを打ち破られる。あなたが燃える怒りを発せられると、それが彼らを刈り株のように焼き尽くす。

15:8 あなたの鼻の息で水は積み上げられ、流れは堰のようにまっすぐに立ち、大水は海の真ん中で固まった。

15:9 敵は言った。『追いかけて、追いつき、略奪したものを分けよう。わが欲望を彼らによって満たそう。剣を抜いて、この手で彼らを滅ぼそう。』

15:10 あなたが風を吹かせられると、海は彼らをおおい、彼らは鉛のように、大いなる水の中に沈んだ。

15:11 主よ、神々のうちに、だれかあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって輝き、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行う方がいるでしょうか。

15:12 あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らを呑み込んだ。

15:13 あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、あなたの聖なる住まいに伴われた。

これはエジプトの軍勢を滅ぼすためにイスラエルの民が海の中の乾いた道を渡らされた時にモーセが歌ったものです。ここで主によって「水は積み上げられ…まっすぐに立ち」と訳されている箇所に聖書で最初のアーラムがあります。追い迫るエジプトの軍勢の脅威と恐怖の中、主の「息」すなわち霊によって起こされ、立ち上がる存在、それは終わりの日に獣、反キリストによる大患難の中で「恵みと嘆願の霊」によって覚醒し、立ち上がるイスラエルの残りの者を指し示しています。不正な管理人、この世の子らとはアーラムすなわち終わりの日に起こされる、立ち上がるイスラエルの残りの者のことであるとイエシュアはここに奥義として言い表しておられるのです。その彼らが立つことによって、その働き、宣教によって、かつてイスラエルの民が海の中を歩いて渡り、約束の地へと導かれたように、大勢の諸国の民が子羊の御座の前へと引き上げられるのです。まさに「あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、あなたの聖なる住まいに伴われた」とあるとおりです。ちなみに私たち教会は「光の子ら」であり、私たちが彼らと同じ大きな患難の中に立つことはありません。先にたとえられていたように、携挙されてもはや地上にはいないからです。それが「この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢いのである。」というたとえに秘められた神のご計画、「神の国の奥義」なのです。

このように主は終わりの日、イスラエルの残りの者を用いて大勢の諸国の民を救うご計画をお持ちであり、私たち教会はその「型」です。私たちもまた彼らと同じ御国の福音を宣べ伝え、それを聞く人々が天に上げられる、携挙されるように働くのです。最後に I テサロニケ 4:16~18 をご一緒に拝読しましょう。